

この年間指導計画は、国語科において育成を目指す資質・能力を3つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）に基づいて整理し、また、本校で育成を目指す「情報活用能力」「市民として求められる資質・能力」が、国語科の授業において、どの時期に、どのように育成しているのかを明確にしたものである。現行の学習指導要領での領域も示しておくことで、よりその単元の中で、どのような生徒の活動が行われているのかが明確になると考えて作成した。

今年度の公開授業の授業設計においては、第2学年の「二 関係を掘り起こす」という単元で育成を目指す資質・能力の3つの柱や、「情報活用能力」「市民として求められる資質・能力」の育成を単元の中で、バランス良く配置した上での1単位時間の授業となっている。

今後は、この年間指導計画に基づいた授業実践を行いながら、授業者自身はもちろんのこと、生徒の授業後の反省や評価等も参考に、計画を見直し、改善を行いながら、資質・能力の育成を図っていくことが必要である。PDCA サイクルを活かし、年間指導計画を改善していくことが、新学習指導要領で求められているカリキュラム・マネジメントであり、誰もが今、何のために授業を行っているのかが理解できる「学びの地図」の作成にもつながると考えている。

（2） 年間指導計画に基づき、資質能力の育成を目指す単元構成の作成

本単元で育成を目指す資質・能力を明確にしたものが、資料2「資質・能力シート」である。

上記に示した「資質・能力シート」は、今年度公開した授業の第2学年「二 関係を掘り起こす」の単元におけるものである。これらの資質・能力を育成する単元構成を考えるにあたり、3つのポイントを単元の中に取り入れていくこととした。

1. 言葉の働きや役割、文章の構造等についての理解を促すこと。
2. 情報をいろいろな立場や視点から吟味し、自分の考えをまとめること。
3. 自分のものの見方や考え方を広げ、深めること。

この3つのポイントを授業場面に設定できる単元を作成することを意識して、本単元の教材研究を進めていった。

本校では教育出版の教科書を採用している。第2学年「二 関係を掘り起こす」という単元では、「日本の花火の楽しみ」「新聞の投書記事を書く」という2つの教材が掲載されている。この2つの教材を関連付け、更には資質・能力の育成を図る上での3つのポイントを意識して単元構成を作成したものが、「単元デザインシート」である（資料3「単元デザインシート」参照）。

資質・能力の育成における3つのポイント、また、2つの教材を関連付けた単元を構成すること。単元前半では「日本の花火の楽しみ」という教材を使用しながら、言葉の働きや役割、文章の構造等に注目させ、筆者のものの見方や考え方を読み取らせることとした。そして、「日本の〇〇の魅力について」というテーマを設定し、書く活動を通して自分の考えをまとめさせることとした。

単元後半では「新聞の投書記事を書く」という教材を使用しながら、投書記事の特性に気づき、どのような情報が投書記事には必要なのかを考える授業場面を設定した。

2つの教材について関連付けるために、単元前半でまとめた「日本の〇〇の魅力について」の自分の考えを、投書記事にするためにはどのような情報を入れていけばよいのか、という視点を持って再構築さ

せ、実際に投書記事を書くという活動を取り入れた。その際に話し合い活動を導入し、他者に自分の文章を読んでもらい、どのような情報が不足しているのかをアドバイスをもらう場面等も取り入れていくことを単元構成の中で考えていながら、本単元を通して、主体的で対話的な深い学びの実現も図ることができる単元構成を作成した。

資料 2

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校					
教科名	国語	学年	2	時期	5～6
単元・題材名	二 関係を掘り起こす				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す資質・能力	情報活用能力	市民として求められる資質・能力		
知識・技能	・言葉の働きや役割に関する理解・使い分け				
	・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)に関する理解・使い分け				
	・情報をいろいろな立場や視点から詳しく調査したり、関係性をとらえて整理したりする力【理解・表現のための創造的・論理的思考-情報と情報の関係性の吟味・構築】		・社会生活における語彙について、事実をもとにいろいろな立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力		
学びに向かう力・人間性等	・言葉を通して、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度	・情報をいろいろな立場や視点から吟味し、その価値を見極めようとする態度			

資料 3

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校						
教科等名	国語科	学年	2	晩期	5～6	
単元名	二 関係を掘り起こす					
この単元で育成を目指す資質・能力						
(a) (b) (c)	3つの柱	具体的な資質・能力			評価する時数	
(a)	知識・技能	言葉の働きや役割に関する理解・使い分け	4	8	9	
(a)	思考力・表現力・判断力等	情報をいろいろな立場や視点から詳しく調査したり、関係性をとらえて整理したりする力【理解・表現のための創造的・論理的思考-情報と情報の関係性の吟味・構築】	2	8	7	10
(a)	学びに向かう力・人間性等	言葉を通して、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度	4	7		
(b)	学びに向かう力・人間性等	情報をいろいろな立場や視点から吟味し、その価値を見極めようとする態度	6	10		
(c)	思考力・表現力・判断力等	社会生活における語彙について、事実をもとにいろいろな立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力	5			
単元の構成						
時数	学習内容 学習方法	探究の過程	評価方法			
1	文章の概要を読み取る(読解文「日本の炬火の楽しみ」) 4つの大段落到小見出しをつけ、段落同士の間隔をとらえる。旁線で示される暗喩の語彙を整理する。	整理・分析	ワークシート(文章の構成を理解し、問いに対する答えを適切にまとめているか)			
2・3	読者の立場をとらえる(読解文「日本の炬火の楽しみ」) 本稿における読者の立場やそこからうかがえる筆者の意図について話し合い、日本の炬火の魅力についてまとめる。	整理・分析	ワークシート(読者の立場をふまえて、日本の炬火の魅力についてまとめているか)			
4	筆者のものの見方や考え方をとらえる(読解文「日本の炬火の楽しみ」) 結論の述べ方や文末表現に着目し、筆者のものの見方や考え方について話し合う。	整理・分析	観察(グループ活動の様子) ワークシート(表現の仕方に着目して筆者のものの見方や考え方をまとめているか)			
5	自分の考えをまとめる 「日本の〇〇の魅力」について、400字程度の文章を書く。	まとめ・表現	ワークシート(社会や日常生活の中で思い起こされる「魅力」について自分の考えをまとめているか)			
6	学習の振り返りと重点をつかむ(「新聞の投書記事を書く」) 教科書と教師の説明から学習の振り返りと重点を理解し、投書記事の特性について話し合う。	整理・分析 課題の設定	観察・ワークシート(投書記事の特性をつかんでいるか)			
7(本時)	書くための情報を集める(「新聞の投書記事を書く」) 個々の課題作文「日本の〇〇の魅力」を投書記事としてライイトする上で効果的な情報についてグループで話し合う。	情報の収集	観察(グループ活動の様子) ワークシート(いろいろな立場や視点から課題を捉え、必要な情報について考えているか)			
8	集めた情報を吟味し、構成する(「新聞の投書記事を書く」) 集めた情報について吟味し、構成の型にあてはめて自分の考えを整理する。	整理・分析	ワークシート(集めた情報を吟味・整理しているか)			
9	文章を記述し、推敲する(「新聞の投書記事を書く」) 投書記事であることを見守りながら600字程度の文章を書き、構成や表現に留意して推敲する。	まとめ・表現	ワークシート(投書記事の特性を認識して、記述・推敲を行っているか)			
10	文章を交差し、評価する(「新聞の投書記事を書く」) 投書記事の特性をふまえて文章を評価し、本単元の学習を振り返る。	整理・分析	ワークシート(投書記事の特性をふまえて評価し、本単元での学びを今後の生活に生かそうとしているか)			

Ⅲ 単元(授業)の実際(Do)

(1) 単元の実際(DO)

単元の計画が明確に示されているため、生徒も各単位時間に目的を持って教材を読み進めたり、集中して活動に取り組む姿が見られた。

特に、単元デザインシートでの4時間目の授業では、次時に「日本の〇〇の魅力」について、自分の考えをまとめるという時間が設定されているため、4時間目の「結論の述べ方や文末表現に着目し、筆者のものの見方や考え方について話し合う」活動においては、それぞれが教材を読み込み、表現の意図について活発に意見を出し合う姿が見られた。

筆者の文末表現の工夫を、自分の考えをまとめる際に参考にする生徒が多かったのは見通しを持つ学習活動が成立していたからに他ならない(資料4・資料5参照)。

資料6 話し合い活動からわかったこと

(2) 授業の実際 (DO)

公開した授業は単元での7時間目の授業である。生徒は「日本の花火の楽しみ」という教材から、筆者のものの見方や考え方を捉えたり、文末表現を工夫する等の手法を身につけている。

「新聞の投書記事を書く」という教材からは、主張を裏付ける根拠の必要性や、調べてわかったこと・自分の体験や経験・他者の意見という3つのパターンの具体例の用い方を理解している。また、実際の新聞の投書記事を集めて、4つの視点から投書記事を読み比べ、どのような文章が投書記事と成り得るのかを話し合い活動を通して考えを深めている。

実際の授業においては、生徒が新聞の投書記事の4つの視点から仲間にアドバイスを送っていたり、実際に書かれた文章の、文末表現の効果などについて活発に意見交換を行う姿が見られた。また、本校ではICT活用の1つとして、生徒1人1人にタブレット端末が配布されており、仲間の作成した文章を、タブレット端末を活用して、他の3名が瞬時に目を通して、的確なアドバイスを送ることもできていた。参観された先生方からは、「国語科として、1つのタブレット端末の活用の形を見ることができて参考になった」との声を頂くこともできた。

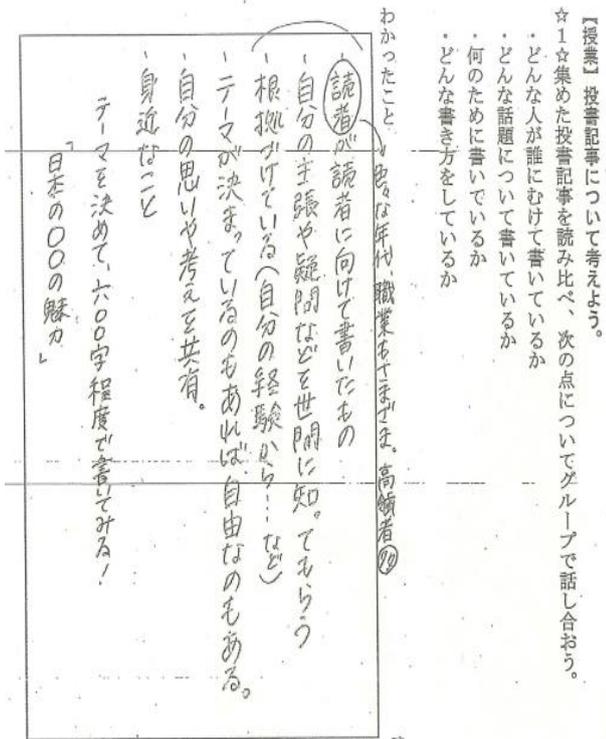


写真1 生徒がタブレットを活用し、他の生徒の作文を読み、アドバイスを考える。



写真2 話し合い活動中に授業者がアドバイスを送る

IV 生徒の達成状況及び参観者の質問・意見等を踏まえた評価 (Check)

本単元を通して育成を目指す資質・能力は個々のワークシートを見る限り、概ね達成することができている。ただし、育成を目指す資質・能力の「社会生活における諸課題について、事実をもとにいろいろな立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力」については課題が残った。「日本の〇〇の魅力」について、自分の考えを書く際に、どうしても「日本の花火の楽しみ」で花火というものに焦点を当てた教材を読んでいたために、伝統芸能という枠に縛られたテーマで自分の考えを書く生徒が多かった。より自由に、社会生活の中からテーマを選ばせる配慮が必要であった。次年度はこの反省を生かして、本単元を修正していきたい。

参観者からも本時の授業の中で、仲間からのアドバイスをもらい、自分の文章を再構築していく姿は素晴らしかった、等の意見を頂いた。対話的な活動が保証されていた故の意見であったと考える。ただ、教師からのアドバイスももらいたかったのでは、等の話し合い活動についての意見も頂いたので、次年度は教師からのアドバイスも伝えることができる手法を考え、この時間に取り込んでいきたいと考えている。



写真3 授業後の教科別分科会の様子

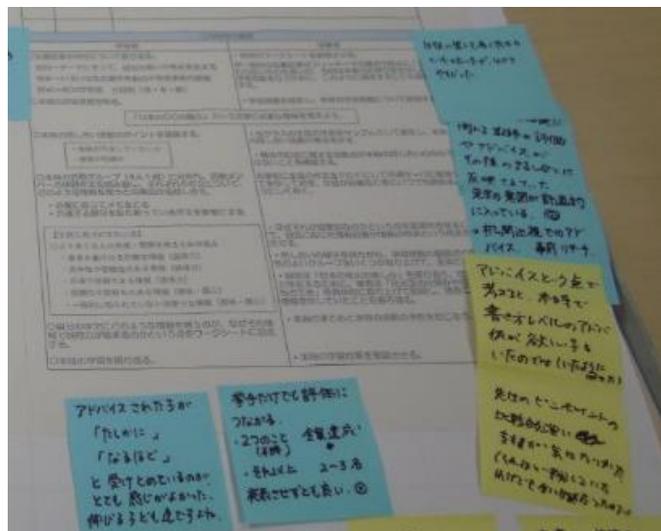


写真4

教科別分科会の後半ではワークショップ
 参加者の方々から多
 様な意見を頂く

V 次年度同単元（授業）及び今後の単元（授業）設計の改善の方向（Act）

次年度の同単元において、前述した「社会生活における諸課題について、事実をもとに様々な立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力」の育成が足りなかった。「日本の花火の楽しみ」という教材からは、生徒が伝統芸能の魅力を語りたくなるのは至極自然の流れである。次年度は、この資質・能力の育成は、同単元の中で行うべきではなく、他の単元の中で育成していくことが妥当であると考え、どの単元が適切なのかを年間指導計画を再考しながら検討中である。

また、本単元5時間目の「日本の〇〇の魅力」について400字程度の文章で書くという時間を先に行い、その後、「新聞の投書記事を書く」という教材に入り、文章の再構築を行ったが、生徒は自分の文章を書き直すという部分において、モチベーションを下げる場面も見られた。単元の流れとしては「日本の花火の楽しみ」という教材を学習した後に、「日本の〇〇の魅力」について、文章を書かせるのではなく、メモ程度のまとめに留めておき、「新聞の投書記事を書く」という教材で、投書記事とはどのようなものかについて理解を深めさせた上で文章を書かせるという流れの方が、今年度実施の流れ以上に、学習課題を意識して取り組めるのではないかと考え、同単元の見直しを図っていきたい。

今後も、各単元のデザインシートで授業を進めていき、授業者から見た生徒の達成状況、並びに生徒自

身による達成状況を踏まえていきながら、各単元における課題を明確にしていき、適宜、改善を図っていききたい。

VI おわりに

「国語科における探究的な学習を実現するための単元構成の工夫・改善」を研究主題として今後も研究を進めていく。年間指導計画や単元構成。更には育成を目指す資質・能力の見直し・改善を適宜進めていくこと。また、単元構成を意識した1単位時間の授業実践を積み重ねていき、生徒の達成状況や授業者の反省等も踏まえながら、見直し・改善を適宜進めていくこと。つまりは、日々の実践を通しながら、カリキュラム・マネジメントを行い続け、平成32年度（中学校学習指導要領全面実施の前年度）に他校が教育課程編成等において参考とすることができる「学びの地図」の完成・提供に向けて、研鑽を積み重ねていきたい。

<参考文献>

- ・『教育科学 国語教育 4月号』明治図書，2017年4月
- ・『教育科学 国語教育 5月号』明治図書，2017年5月
- ・『教育科学 国語教育 6月号』明治図書，2017年6月
- ・『教育科学 国語教育 7月号』明治図書，2017年7月
- ・『教育科学 国語教育 8月号』明治図書，2017年8月